

# 里村穰の国語科（第5学年）研究計画

## 1 本研究の位置付け

本研究では、第5学年国語科「読むこと」での説明的な文章（以下、説明文）を教材とした学習において、**自分の考えを明確にしながら読もうとする子ども**を目指す。

学習指導要領第5学年及び第6学年の「C読むこと」(1)目標の解説では、「自分の考えをまとめる能力を育成することを求めている」とある。また、指導事項に「自分の考えの形成及び交流」が新設され、「多様な本や文章を読んで感想を述べたり考えを表現したりする」言語活動例も示されている。これからの「読むこと」の学習では、書き手（以下、筆者）の考えを理解するために読むだけでなく、自分の考えを確かなものにするために読むことが重要視されていると考える。

説明文を教材として扱うのは、話題に対する筆者の考えが複数の事例を根拠や理由にして書かれている文章だからである。この複数の事例を筆者の考えと自分の考えとの差異を視点に整理・分析させることで、子どもは、話題に対して多様な視点を獲得することができる。獲得した多様な視点を基に、自分にとって大事だと考える事例を選択させ、なぜその事例が大事だと判断したのかを考えさせることで、子どもは、自分の考えを確かなものにしたたり、あるいは、変容させたりすることができる。この姿が、自分の考えを明確にしながら読もうとする子どもの姿である。

これまでの説明文の学習でも、文章を読んで自分の考えを表現させてきた。しかし、表現される考えが、文章を読んだ感想にとどまってしまうたり、筆者の考えをなぞらえるだけになったりしてしまう子どももいた。その原因は、筆者の挙げる複数の事例から多様な視点を見いださせることと、見出した視点を考える手掛かりとさせる指導が不十分であったからである。

目指す子どもの姿となるには、複数の事例を整理・分析させて多様な視点を見出させる場面と、自分が大事だと思う事例を選択させ、自分の考えが明確になる見通しをもたせる場面が大切となる。事例を整理・分析させるためには、筆者の考えと自分の考えとの差異を視点に比較させる。複数の事例を整理・分析させた段階で、初めに決めた自分の立場を再決定させ、そのように判断した理由を問う。子どもは、整理・分析した複数の事例の中から、必要だと思う事例を選択し、立場を決める。理由を問われることで、話題に対して自分がどの点を大事にしたいと考えているのかを意識させることができ、この意識が自分の考えを明確にする見通しとなる。そして、見通しをもった子どもに、考えを表現させる。子どもは、選択した事例を根拠に考え、自分の考えを確かなものにしたたり、変容させたりする。

考えを表現し終えた段階で、自分の考えが確かなものになったり変容したりしたことを認識させる。自分の考えが明確になったと認識した子どもは、今後の「読むこと」の学習においても、自分の考えを基に文章を読む読み方を生かし、自分の考えを明確にしながら読もうとする子どもとなる。

## 2 主張する働き掛け

単元を貫く言語活動を、討論会や意見文など自分の考えを表現する活動とする。

まず、説明文を読む前に、説明文の話題に関する実物や写真などの資料を提示して話題をつかませた後、話題に関して立場を決めさせる。子どもは、話題に対する既存の知識や経験を根拠にして考え、立場を決める。このときの考えを、話題について初めにもった自分の考えとする。

次に、立場を決めた子どもに、表現活動を行うことを伝え、できそうかと問う。子どもは、このままではまだできないという思いをもつ。その理由を問うと、話題についてもっと知りたいと答える。この「話題についてもっと知りたい」という意識になった状態を、「話題に対して自分の考えを明確にしたい」という問いをもった状態と見なす。この状態の子どもに、複数の説明文を提示して読ませ、全体でそれぞれの筆者の考えを確認する。複数の説明文を提示されたことで、子どもは、それぞれの筆者の考えと自分の考えとの比較を始める。そして、自分の考えに近いのがどちらの筆者の考えなのかを意識する。しかし、それぞれの筆者の考えと自分の考えは、完全に一致した考えとはならない。筆者の考えと自分の考えとに一致しない差異があると意識した子どもに、次の働き掛けを行う。

### 働き掛け1

それぞれの筆者の考えと自分の考えの差異と、その要因を問う。

それぞれの筆者の挙げる複数の事例を整理・分析させ、話題に対する多様な視点を見出させる働き掛けである。「考えが違うと思っているところはどこか。なぜ、そのような違いがあるのか」と問う。子どもは、考えの差異の要因をそれぞれの事例に求め、筆者の考えと自分の考えとの差異を視点に比較して、複数の事例の整理・分析を始める。整理・分析させる際に、「〇〇が□□なので△△である」と、事実と感想、意見に分けて整理・分析させることで、話題に対して、どちらの筆者も肯定的な事例と否定的な事例とを挙げていること、多様な視点があることをつかむ。多様な視点をつかんだ子どもは、初めに決めた立場を迷い始める。この子どもに、次の働き掛けを行う。

### 働き掛け2

自分の立場を再決定させ、そのように判断した理由を問う。

自分に必要な事例を選択させて自分の考えに見通しをもたせる働き掛けである。「自分の立場を変えるか、変えないか」と問う。子どもは、**自分の考えを視点にして「比較するすべ」を使って、筆者の考えと事例の関係と自分の選択した事例と自分の考えの関係をつなげ**、自分の立場を決めようと、自分に必要な事例を選択する。この事例は、初めの自分の考えを確かなものにする事例であったり、初めの自分の考えを変容させる事例であったりする。複数ある事例の中から選択できたということは、自分の考えを明確にする見通しをもたえたということである。「なぜその事例が必要なのか」を問い、理由を記述させることで、子どもは、明確になった自分の考えを表現する。

自分の考えを表現した子どもに、次のように働き掛ける。

### 働き掛け3

初めの考えと今の考えでは、どちらが自分の考えがはっきりしているかを問う。

これまでの活動を振り返らせ、自分の考えが明確になったことを認識させる働き掛けである。「どちらが自分の考えがはっきりしているか」と問い、記述させる。問われることで、子どもは、初めの考えの記述と今の考えの記述を読み比べる。記述には、「今の考えの方が、考えがはっきりしている。なぜなら、〇〇の事例があることで、自分の□□という考えがより確かなものになるからだ」「△△の事例を知って、初めの自分の立場を変えたが、今の自分の考えの方がはっきりしている。なぜなら、この事例から☆☆という考えになったからだ」と、自分の考えが明確になったことを認識した内容が表現される。この認識をもった子どもは、本単元での読み方に有用性を感じ、次の文章でも、**自分の考えを明確にしながらかく読むとする**。この姿が、目指す子どもの姿である。

## 3 検証

### (1) 検証すること

- ① 構想した働き掛けにより、想定した「考えるすべ」を使って、類似した既存の知識や経験をつなぐことができたか。
- ② 構想した働き掛けにより、学びをつなぐ力を高めた姿になったか。

### (2) 検証の方法

- ① 働き掛け2において、想定した比較するすべを使って、自分の考えを視点に筆者の考えと事例との関係と自分の考えと事例との関係をつなげ、自分に必要な事例を選択し、その理由を考えられたかをワークシートの記述内容から検証する。
- ② 働き掛け3の後で、目指す姿になったかをワークシートの記述内容から検証する。

## 4 年間の授業計画

- (1) 指定研究授業(6月) 「森林について考えよう」(10時間)
- (2) 中間検討会(9月) 「インスタント食品について考えよう」(8時間)
- (3) 初等教育研究会(2月) 「世界遺産について考えよう」(12時間)